

Salem State University

セイラム州立大学

所在地

352 Lafayette St. Salem, MA 01970-5353, U.S.A.
 ホームページ: <http://www.salemstate.edu/>

主な対象学部
 外国語学部・学部留学

沿革

1854年に師範学校として設立され、1932年にセイラム教育大学となり、1960年にセイラム州立大学としてカリキュラムを充実させてきた。セイラムはボストンの北33キロにあり、ニューイングランド文学とアメリカ史の原点ともいべき場所で、アメリカの文学と歴史、美術を居ながらにして学ぶことができる。学生数は学部、大学院を含め、約9,300名。

特色

本学留学生用のプログラムではなく、セイラム州立大学の正規の授業を受ける。したがって、留学生それぞれによって履修科目、取得単位認定科目が異なるが、1学期に最低12単位登録しなければならない。アメリカの大学で基本となっている教養学部 (Liberal Arts) を中心とした州立大学で、英語、英文学をはじめ、心理、社会、歴史などの人文科学から社会科学の科目や、コンピュータやマーケティングといったより応用的な科目が用意されている。

宿泊

キャンパス内に寮があり、本学の学生はサウスキャンパスにあるアパート形式の寮 (ベイツ・タウンハウス) に入る。セイラム州立大学の学生と二人部屋で、ハウスマイトが6名程いる。

生活

ボストンからバスで約50分の位置にあり、非常に治安がよい。寮から歩いてすぐに、レストラン、スーパーなどがあり、毎日の生活に便利。校内は無料のシャトルバスがある。休暇中はホームステイもできる。

条件

TOEFL (ITP) 500点 (iBT61点) 以上、あるいはTOEIC585点以上が望ましい。留学手続きの際に専任教員の推薦状が必要。

留学時期

2年次または3年次第2学期から1年間。



寮のCOMMONスペース

Salem State University

外国語学部英語コミュニケーション専攻 2015年留学 鈴木 陸

自分はSalem State University に約1年間留学してきました。自分は麗澤大学に入った頃から留学をしたいという気持ちが強く、留学が決まった時はとても嬉しかったのを覚えています。ただそれと同時に、留学へ向かう1ヶ月前はあまり実感がわかなく、少し準備不足だったかなと思いました。というのは最低限の物しか持っていかなかったため、いろいろ初めは苦労しました。また留学のための資料を集めることや記入すること、また大使館での面接など留学の前の準備が意外と大変でした。

まずアメリカに着いて自分は少し戸惑っていました。というのは、まだ環境に慣れきっていてもいないのに、休みもあまりなく、毎日オリエンテーションが

あったからです。ただこのオリエンテーションがこの留学での1つの非常に大切なポイントでした。ここで出会った人たちが後々、また今でもとても大切な友達になったからです。またこのオリエンテーションでは、むこうでどのように生活していくか、どのような場所があるかなど、生活するにあたってとても重要なことを学んだからです。

オリエンテーションが終わると、ほとんど休みもなく秋学期が始まります。授業ではもちろんネイティブの方々とも基本的には受けるのでとても難しく、また課題を多く出す先生だったのでとても大変でしたが、その分学べたことも多くありました。また麗澤のように毎日朝から夕方まで授業があるというのではなく、1日1つか2つくらいしか授業がないので、麗澤よりも自由に過ごせました。授業の難しさは、同じ名前の授業でも、先生によって難しさが変わってきます。例えば学生のことをよく世話をしてくれる先生もいますし、あまり学生と

関わりを持たない先生がいたり、課題やテストの難易度、頻度もかなりの差がありました。なので、先生の評価がみられるサイトがかなり役に立ちました。また授業だけでなく、毎日自炊をしなければならぬ生活もこの学期から始まり、どこにスーパーがあるか、どのように生活していくかなど大変でした。秋学期の間にはThanksgiving、クリスマスがあります。その2つの行事にはアメリカの文化が顕著に表れており、様々な違いや日本にはない文化を感じることができました。

春学期に入ると、かなり余裕が出てきます。授業は相変わらず大変ですが、それと同時にクラブ活動をするなどの余裕が出てきました。自分はISAという、留学生たちでイベントを計画して実行するというクラブに入りました。秋学期からそのクラブには所属していたのですが、春学期になって余裕が出てきたため、より自分はそのクラブのため動くようになりました。その

中で一番大きなイベントが、カルチュラルナイトという様々な国の伝統的な物や食べ物、また歌や楽器を集め、様々なイベントとともに紹介していくというものです。この学期が終了したあと、60日間アメリカにとどまることのできるため、自分はカリフォルニアとボストンで過ごしました。

自分はこの留学をすることで、様々なことを見て、感じ、すぐ成長できたと思います。英語やアメリカの文化はもちろんですが、他文化からも多くのことを学びました。初めは、一緒に時期に来た他国からの留学生と過ごして、だんだんとアメリカ人とも多くの時間を過ごすようになりました。この留学で色々ありましたが、全てが価値のある経験で、自分はこの留学は行って良かったと心から言えるようなものでした。